

決 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

令 和 7 年 9 月 17 日（水）午 後 1 時 13 分 開 議

○審査日程

- 1 委員長の互選
- 2 副委員長の互選
- 3 委員席の指定
- 4 分科会の設置
- 5 分科会委員の選任
- 6 分科会主査・副主査の互選
- 7 理事会の設置
- 8 総括説明

議案自第129号至第142号

財政局長

議案第143号

病院事業管理者

議案第128号、第144号及び第145号

建設局長

議案第146号

水道局長

○出席委員

石 川 美 香 君
 茂 呂 一 弘 君
 須 藤 博 文 君
 黒 澤 和 泉 君
 山 崎 真 彦 君
 渡 邊 惟 大 君
 青 山 雅 紀 君
 前 田 健 一 郎 君
 小 坂 さ と み 君
 渡 辺 忍 君
 枕 澤 洋 平 君
 蛭 田 浩 文 君
 阿 部 智 君
 植 草 毅 君
 亀 井 琢 磨 君
 川 合 隆 史 君
 段 木 和 彦 君
 盛 田 眞 弓 君
 森 山 和 博 君

吉 川 英 二 君
 岳 田 雄 亮 君
 岡 崎 純 子 君
 野 島 友 介 君
 大 平 真 弘 君
 桜 井 秀 夫 君
 伊 藤 隆 広 君
 石 川 弘 君
 三 井 美 和 香 君
 安 喰 初 美 君
 守 屋 聡 君
 伊 藤 康 平 君
 松 坂 吉 則 君
 岩 井 雅 夫 君
 田 畑 直 子 君
 麻 生 紀 雄 君
 佐々木 友 樹 君
 櫻 井 崇 君
 酒 井 伸 二 君

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

小松崎 文 嘉 君	向 後 保 雄 君
宇留間 又衛門 君	中 島 賢 治 君
三 須 和 夫 君	石 井 茂 隆 君
米 持 克 彦 君	石 橋 毅 君
白 鳥 誠 君	三 瓶 輝 枝 君
中 村 公 江 君	野 本 信 正 君

○説明員

市 長 神 谷 俊 一 君	副 市 長 大 木 正 人 君
副 市 長 橋 本 直 明 君	病院事業管理者 山 本 恭 平 君
総合政策局長 藤 代 真 史 君	総 務 局 長 久 我 千 晶 君
財 政 局 長 勝 瀬 光一郎 君	市 民 局 長 那 須 一 恵 君
保健福祉局長 今 泉 雅 子 君	こども未来局長 大 町 克 己 君
環 境 局 長 秋 幡 浩 明 君	経 済 農 政 局 長 安 部 浩 成 君
都 市 局 長 鹿子木 靖 君	建 設 局 長 山 口 浩 正 君
消 防 局 長 市 村 裕 二 君	水 道 局 長 山 田 裕 之 君
会 計 管 理 者 折 原 亮 君	病 院 局 次 長 橋 本 欣 哉 君
市長公室長 山 崎 哲 君	総 務 部 長 中 尾 嘉 之 君
財 政 部 長 大 畑 晃 君	教 育 長 鶴 岡 克 彦 君
教 育 次 長 中 島 千 恵 君	選挙管理委員会 清 水 公 嘉 君
人 事 委 員 会 桑 本 茂 樹 君	事 務 局 長 農 業 委 員 会 渡 部 義 憲 君
事 務 局 長	事 務 局 長
代表監査委員 穴 倉 輝 雄 君	

○議会事務局

事 務 局 長 香 取 徹 哉 君	次 長 寺 崎 勝 宣 君
議 事 課 長 安 西 雅 樹 君	議事課長補佐 佐 藤 大 介 君
議 事 班 主 査 石 黒 薫 子 君	

○議長（松坂吉則君） ただいまから、決算審査特別委員会を開催していただくわけですが、本日は最初の委員会でございますので、正副委員長の互選等をお願いいたします。

私より、年長委員であります石橋毅議員を御紹介申し上げます。

それでは、石橋毅議員、よろしくお願いいたします。

〔議長退席、年長委員着席〕

午 後 1 時 13 分 開 議

○年長委員（石橋 毅君） ただいまから、決算審査特別委員会を開きます。

私が年長委員ということでありますので、委員長が互選されるまで委員長の職務を務めさせていただきます。

出席議員は50名、委員会は成立いたしております。

委員長の互選

○年長委員（石橋 毅君） それでは、委員長の互選につきましては、指名推薦の方法によることとし、私から指名したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○年長委員（石橋 毅君） 御異議がないものと認め、委員長には麻生紀雄委員を指名したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○年長委員（石橋 毅君） 御異議がないものと認め、麻生紀雄委員が委員長に当選されました。

それでは、委員長就任の御挨拶をお願いいたします。

〔委員長 麻生紀雄君 登壇、拍手〕

○委員長（麻生紀雄君） ただいま、先輩ならびに同僚議員の皆様の御推挙により、決算審査特別委員会委員長を拝命させていただきました、立憲民主・無所属千葉市議会議員団の麻生紀雄でございます。

近年の円安や原油高の影響による原材料費や物流コストの高騰により、令和6年度は長期化する物価高騰の影響を大きく受けた一年でありました。その中で、効果的な予算執行がなされたのか、また補正予算の編成が適切であったのか、しっかりと検証すべき1年でもあります。

明日から始まります分科会におきましては、求められる決算審査を着実に行うとともに、次期へとつながる建設的な審査としたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、決算審査特別委員会及び分科会の円滑な運営に格別の御協力を賜りますようお願い申し上げて、簡単ではございますけど、就任の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○年長委員（石橋 毅君） それでは委員長を交代いたします。皆様方の御協力、感謝申し上げます。

〔年長委員退席、委員長着席〕

副委員長の互選

○委員長（麻生紀雄君） 引き続き、副委員長の互選につきましては、指名推薦の方法によることとし、私から指名したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、副委員長には須藤博文委員を指名したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、須藤博文委員が副委員長に当選されました。

それでは、副委員長就任のご挨拶をお願いいたします。

〔副委員長 須藤博文君 登壇、拍手〕

○副委員長（須藤博文君） ただいま、皆様より御推挙いただきました、自由民主党千葉市議会議員団の須藤博文でございます。微力ではございますが、麻生委員長を補佐し、円滑な決算

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

審査特別委員会運営に努めてまいります。市政向上に資するため、ぜひとも自由闊達な議論をしていただけますよう、委員の皆様に御協力も併せてよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、就任の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

委員席の指定

○委員長（麻生紀雄君） 次に、委員席につきましては、ただいまお座りの席を指定いたします。

分科会の設置

○委員長（麻生紀雄君） 次に、議案第128号から第146号までの19議案の審査のため、常任委員会の所管ごとに5つの分科会を設置することとし、各常任委員会の委員定数をもって構成いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、さよう決定いたしました。

分科会委員の選任

○委員長（麻生紀雄君） 次に、分科会委員の選任につきましては、お手元に配付の委員表のとおり指名いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、さよう決定いたしました。

委員表を添付

分科会主査・副主査の互選

○委員長（麻生紀雄君） 次に、各分科会の正副主査につきましては、各常任委員会の正副委員長を充てることといたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、さよう決定いたしました。

理事会の設置

○委員長（麻生紀雄君） 次に、決算審査特別委員会に理事会を設置し、理事会は議会運営委員会理事会の構成を持って充てることといたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、さよう決定いたしました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 1 時 17 分 休憩

午後 2 時 0 分 開 議

総括説明

○委員長（麻生紀雄君） 休憩前に引き続き委員会を開きます。

まず、令和 6 年度一般会計決算及び各特別会計決算の総括説明をお願いいたします。財政局長。

○財政局長（勝瀬光一郎君） 令和 6 年度決算の概要について、総括説明を申し上げます。

私からは、一般会計及び特別会計について申し上げ、企業会計につきましては、病院事業管理者及び各所管局長より御説明申し上げます。

それでは、お手元の令和 6 年度主要施策の成果説明書の目次を御覧ください。

本説明書は、1 から 6 まで大きく 6 つの項目に分けて記載しておりますが、1 の予算執行の概況につきましては、今議会冒頭の提案理由説明で市長より申し上げましたので、説明を省略させていただき、本日は、2 の一般会計決算の概要から、4 の特別会計決算の概要までを御説明いたします。

5 の決算額状況表は、これらの基礎数値となっておりますので、適宜、御覧いただきたいと存じます。

なお、健全化判断比率及び資金不足比率につきましては、5 の（10）に記載しております。

また、6 の局別決算状況につきましては、明日からの分科会で各所管局長より御説明申し上げます。

それでは、2 ページをお願いいたします。

2 の一般会計決算の概要について申し上げます。

表 1 を御覧ください。

予算現額 5,758 億 9,100 万円に対しまして、歳入決算額は 5,294 億 7,000 万円、歳出決算額は 5,256 億 7,700 万円となっております。

歳入歳出差し引き額は 37 億 9,300 万円で、翌年度へ繰り越すべき財源 8 億 1,100 万円を差し引いた実質収支は、29 億 8,200 万円の黒字となりました。

次に（1）の歳入です。

款別の、主な内訳を表 2 に記載しております。表の下の説明欄と、合わせて御覧ください。

初めに、市税です。

決算額は 2,119 億 3,700 万円、構成比は 40.0%、前年度に比べ 39 億 7,200 万円、1.9% の増となりました。これは、法人市民税が申告税額の増により増額となったほか、固定資産税が償却資産の設備投資などの増により増額となったことなどによるものです。

次に、国庫支出金です。

決算額は 1,163 億 600 万円、構成比は 22.0%、前年度に比べ 4 億 3,400 万円、0.4% の増となりました。これは、新型コロナウイルスワクチン接種関連収入が減額となったものの、新清掃工場整備事業などの進捗に伴い、循環型社会形成推進交付金収入が増額となったことなどによるものです。

次に、市債です。

決算額は 465 億 1,700 万円、構成比は 8.8%、前年度に比べ 40 億 3,900 万円、9.5% の増となり

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

ました。これは、新清掃工場整備事業などの進捗に伴い、建設事業債が増額となったことなどによるものです。

次に、地方交付税です。

決算額は300億2,900万円、構成比は5.7%、前年度に比べ45億8,300万円、18.0%の増となりました。これは、地方交付税の原資となる国税収入の増などに伴い、地方交付税総額が増となったことから、普通交付税が増額となったことなどによるものです。

次に、県支出金です。

決算額は269億3,000万円、構成比は5.1%、前年度に比べ11億5,200万円、4.5%の増となりました。これは、認可保育施設の入所児童数の増に伴い、子ども・子育て支援給付収入が増額となったことなどによるものです。

以下、主な歳入は記載のとおりでございます。

4ページをお願いいたします。

（2）の歳出です。

款別の主な内訳を表3に記載しております。表の下の説明欄と合わせて御覧ください。

初めに、民生費です。

決算額は2,137億1,200万円、構成比は40.7%、前年度に比べ103億5,400万円、5.1%の増となりました。これは、国の経済対策に伴い定額減税調整給付金の支給に係る経費が増額となったほか、認可保育施設の入所児童数の増に伴い、子ども・子育て支援給付事業費が増額となったことなどによるものです。

次に、教育費です。

決算額は796億9,100万円、構成比は15.2%、前年度に比べ69億6,200万円、9.6%の増となりました。これは、稲毛国際中等教育学校校舎の大規模改修工事の進捗に伴い、中学校校舎等改修事業費が増額となったことなどによるものです。

次に、土木費です。

決算額は558億5,500万円、構成比は10.6%、前年度に比べ29億6,400万円、5.6%の増となりました。これは、整備量の増に伴い、市有建築物保全計画事業費が増額となったことなどによるものです。

次に、衛生費です。

決算額は547億5,200万円、構成比は10.4%、前年度に比べ41億8,900万円、8.3%の増となりました。これは、新型コロナウイルスワクチン接種事業費が減額となったものの、事業の進捗に伴い、新清掃工場整備事業費が増額となったことなどによるものです。

次に、公債費です。

決算額は516億400万円、構成比は9.8%、前年度に比べ13億6,900万円、2.6%の減となりました。これは、償還元金が減額となったことなどによるものです。

以下、主な歳出は記載のとおりでございます。

6ページをお願いいたします。

3の一般会計の財政構造について申し上げます。

まず、歳入の、自主財源と依存財源の状況です。

表4を御覧ください。

内訳の欄にあります自主財源の決算額は、2,606億1,400万円、前年度に比べ39億8,600万円、

1.6%の増となりました。これは、市税や繰入金が増額となったことなどによるものです。

一方、依存財源の決算額は2,688億5,600万円、前年度に比べ192億100万円、7.7%の増となりました。これは、地方交付税や地方特例交付金が増額となったことなどによるものです。

これらから、歳入全体に占める自主財源の構成比、自主財源比率は49.2%となり、前年度に比べ1.5ポイントの減となっております。

次に、7 ページ歳出の性質別の状況です。

表 5 を御覧ください。

表の上段、義務的経費の決算額は3,041億3,600万円、構成比は57.9%、前年度に比べ136億7,800万円、4.7%の増となりました。これは、定年年齢の段階的な引上げに伴う退職手当の増や給与改定などにより、人件費が76億6,600万円の増額となったほか、定額減税調整給付金や、子ども・子育て支援給付事業費の増などにより扶助費が73億9,800万円の増額となったことなどによるものです。

表の中ほど、投資的経費の決算額は617億5,200万円、構成比は11.7%、前年度に比べ153億9,700万円、33.2%の増となりました。これは、中学校校舎等改修事業費の増などにより単独事業費が81億2,400万円の増額となったほか、新清掃工場整備事業費の増などにより補助事業費が73億8,300万円の増額となったことなどによるものです。

表の下から 2 段目、その他の経費の決算額は1,597億8,900万円、構成比は30.4%、前年度に比べ58億8,100万円、3.5%の減となりました。これは、下水道事業負担金の減などにより、補助費等が減額となったほか、中小企業資金融資事業費の減などにより、貸付金が減額となったことなどによるものです。

8 ページをお願いいたします。

4 の特別会計決算の概要について申し上げます。

表 6 を御覧ください。

病院事業、下水道事業、農業集落排水事業及び水道事業の、4 企業会計を除く、特別会計13 会計の決算額は一番下の計の欄ですが、歳入が3,360億7,800万円、歳出が3,333億8,900万円となりました。

特別会計の主なものについて御説明いたします。

9 ページを御覧ください。

初めに、①の国民健康保険事業特別会計の決算額は、歳入が772億9,600万円、歳出が772億3,800万円となりました。

歳入の主なものは、国民健康保険料が177億1,300万円、国・県支出金が528億400万円、一般会計からの繰入金が59億5,200万円となっております。

歳出の主なものは、保険給付費が521億1,600万円、千葉県へ支払う国民健康保険事業費納付金が232億7,900万円となっております。

次に、②の介護保険事業特別会計の決算額は、歳入が851億1,200万円、歳出が831億7,400万円となりました。

歳入の主なものは、介護保険料が197億1,900万円、国・県支出金が306億2,900万円、社会保険診療報酬支払基金からの介護給付費等交付金が218億5,200万円、一般会計からの繰入金が127億2,000万円となっております。

歳出の主なものは、保険給付費が782億2,900万円、地域支援事業費が32億600万円となって

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

おります。

次に、③の後期高齢者医療事業特別会計の決算額は、歳入が155億3,600万円、歳出が154億2,900万円となりました。

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料が133億5,600万円、一般会計からの繰入金が20億9,900万円となっております。

歳出の主なものは、千葉県後期高齢者医療広域連合への納付金が153億3,900万円となっております。

次に、④の競輪事業特別会計の決算額は、歳入が46億5,100万円、歳出が46億1,100万円となりました。

歳入の主なものは、勝者投票券売上が38億8,300万円となっております。

歳出の主なものは開催費が43億3,500万円、一般会計への繰出金が1,600万円となっております。

最後に、⑤の公債管理特別会計の決算額は、歳入・歳出それぞれ1,374億9,500万円となりました。

歳入の主なものは、各会計などからの繰入金が1,044億7,300万円、借換債が326億8,100万円となっております。

歳出の主なものは、元金が991億2,300万円、市債管理基金積立金が322億8,000万円となっております。

最後に、少し飛びますが、24ページ、25ページをお願いいたします。

（8）各会計別地方債総括表ですが、これは、各会計の地方債の状況を示した表でございます。

表の一番下の合計欄を御覧ください。

全会計で、令和5年度末現在高は、一番左側、9,567億円ですが、これに、その右の6年度発行額993億円を加え、さらにその右の償還元金1,030億円を差し引いた6年度末の現在高は、一番右の9,530億円となり、前年度に比べ37億円減少いたしました。

以上が、一般会計及び特別会計の総括説明でございます。

令和6年度におきましても、持続可能な財政構造の確立に向け、全庁を挙げて歳入の確保を図るとともに、歳出においても、効率的な執行に努めてきたところでございます。

明日からの分科会での御審議につきましてよろしくお願い申し上げ、説明を終わらせていただきます。

○委員長（麻生紀雄君） 次に、令和6年度病院事業会計決算の総括説明をお願いいたします。病院事業管理者。

○病院事業管理者（山本恭平君） 令和6年度の病院事業会計決算について御説明いたします。

千葉市病院事業会計決算書の15ページをお願いいたします。

初めに、1、概況の（1）総括事項について、御説明いたします。

病院事業では、第5期千葉市立病院改革プランを令和4年4月に策定し、市民が必要とする安全・安心で高度な医療を一人でも多くの市民に提供すること、及び健全な病院経営を確立し市立病院を持続発展させることの2つを使命として、救急医療をはじめ、青葉病院での血液疾患や精神疾患、海浜病院での小児・周産期医療やがん治療などを行い、地域の中核的な病院として、良質な医療の提供に努めております。

また、市立病院が今後も地域において必要な医療提供体制を確保するとともに、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すため、千葉市立病院改革プランに基づく取組を行いました。

次に、病院別の状況についてです。

青葉病院では、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などをはじめ、幅広く血液疾患の治療を行ったほか、糖尿病センターにおいて糖尿病患者の血糖コントロールやインスリン導入、甲状腺・副甲状腺センターにおいてバセドウ病や橋本病、甲状腺癌などの甲状腺・副甲状腺疾患の治療を行いました。

また、入院を必要とする患者を搬送する救急車を断らないという基本方針の下、4,978件の救急搬送を受け入れました。

海浜病院では、地域小児科センターとして、小児の救急疾患から一般診療、専門治療まで幅広い小児医療を提供したほか、地域周産期母子医療センターとして、新生児集中治療室と連携し、リスクの高い新生児や妊産婦への対応を図りました。

また、救急医療の体制の強化を図り、救急患者の積極的な受入れに取り組んだ結果、小児2,203件、新生児や妊産婦247件を含む、6,316件の救急搬送を受入れました。

なお、救急受入件数のうち376件は、医師及び救急救命士が同乗する病院独自の患者搬送車による迎え搬送であり、この他、送り搬送を217件実施し、消防局救急隊の負担軽減に寄与することができました。

新病院については、令和8年秋の開院に向け、全体計画に沿って建設工事を進めております。

次に、決算状況について御説明いたします。

2ページ、3ページにお戻りください。

表の金額については、1,000円未満四捨五入で御説明いたします。

初めに、（1）収益的収入及び支出についてですが、まず収入は、第1款病院事業収益では予算額の合計245億1,922万7,000円に対し、決算額は、245億140万7,000円で、1,782万円の減となっております。これは、第1項医業収益が、海浜の入院延患者数は見込みを上回ったものの、両病院の外来患者数及び青葉病院の入院患者数は見込みを下回ったことによるものでございます。

次に、支出ですが、第1款病院事業費用では、予算額合計267億4,250万7,000円に対し、決算額は257億5,981万円で、不用額は9億8,170万7,000円となっております。

不用額の主な理由は、第1項医業費用において、給与費や経費が見込みを下回ったことなどによるものです。

なお、これらの結果、12億7,238万4,000円の純損失が生じました。

4ページ及び5ページをお願いいたします。

（2）資本的収入及び支出ですが、収入は、第1款資本的収入の予算額の合計140億1,070万8,000円に対し、決算額は71億2,070万3,000円で、68億9,000万5,000円の減となっております。これは、第1項企業債が見込みを下回ったことなどによるものでございます。

次に、支出ですが、第1款資本的支出の予算額の合計153億7,848万7,000円に対し、決算額は82億3,060万9,000円で、不用額は4億3,636万3,000円となっております。

これは、第1項建設改良費について、設備改修の見直しや、購入する医療機器の精査などによるものでございます。

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

以上が、病院事業会計の決算状況でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（麻生紀雄君） 次に、令和6年度下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について、また、令和6年度下水道事業会計決算及び令和6年度農業集落排水事業会計決算の総括説明を、お願いいたします。建設局長。

○建設局長（山口浩正君） 令和6年度下水道事業会計決算について、御説明いたします。

また、議案第128号・令和6年度千葉市下水道事業会計剰余金の処分についても関連しますので、あわせて御説明いたします。

まず、下水道事業会計決算書の15ページをお願いいたします。

初めに、1、概況の（1）総括事項について御説明いたします。

中ほどのア、事業実績でございますが、令和6年度末の事業計画面積は1万3,121ヘクタールで、このうち1万2,302ヘクタールが整備済みとなり、整備率は93.8%となりました。

また、行政区域内人口98万4,357人に対し、整備区域内人口は96万144人となり、下水道処理人口普及率は97.5%となりました。このうち接続人口については、前年度より3,298人増加し、95万5,826人となり、接続率は99.6%となりました。

また、年間処理水量は1億1,812万9,000立方メートル、1日平均処理水量は32万4,000立方メートルとなっております。

主な事業のうち浸水対策については、大雨などによる被害を軽減するため、雨水対策重点地区整備基本方針などに基つき、雨水管渠や雨水貯留槽の整備を行うとともに、引き続き、市民による防水板設置の費用を一部助成しました。

また、地震時における機能の確保として、管渠の耐震化工事を進め、都ポンプ場などにおいて躯体の耐震化工事を行いました。

また、施設の維持管理として、中央雨水ポンプ場や南部浄化センターなどで設備等の修繕を、施設の老朽化対策として、中央浄化センターや南部浄化センターなどで設備等の改築を行いました。

汚水管渠の整備については、菅田町1丁目、桜木北2丁目などの面整備を推進した結果、整備面積が2ヘクタール増加しました。

資源の有効利用については、南部浄化センターにおける汚泥固形燃料化施設の建設を引き続き進めており、官民連携については、管路及び処理場等の維持管理における包括的民間委託を引き続き実施しました。

次に、決算状況について御説明いたします。

戻りまして、決算書の2ページ、3ページをお願いします。

表の金額については、1,000円未満四捨五入で御説明します。

初めに、収益的収入及び支出ですが、収入は、第1款下水道事業収益の予算額合計310億8,512万7,000円に対し、決算額は305億7,874万2,000円で、5億638万5,000円の減となっております。

減の主なものですが、第1項営業収益が2億6,382万2,000円の減で、これは主に、一般会計負担金が、繰入対象経費である維持管理費や企業債利息の減少に伴い、減額となったことなどによるものでございます。

また、第2項営業外収益が2億1,015万5,000円の減で、これは一般会計補助金が繰入対象経費であるポンプ場及び処理場における電気料単価高騰分が想定を下回り減少したことから、減

額となったことなどによるものでございます。

次に、支出は、第 1 款下水道事業費用の予算額合計 295 億 4,684 万 3,000 円に対し、決算額は 291 億 6,576 万 8,000 円で、不用額は 3 億 8,107 万 5,000 円となっております。

不用額の主なものですが、第 2 項営業外費用が 5 億 443 万 5,000 円で、これは企業債の借入額・借入利率が想定を下回ったことにより、支払利息が減少したことなどによるものでございます。

4 ページ、5 ページをお願いします。

次に、資本的収入及び支出ですが、収入は、第 1 款資本的収入の予算額合計 303 億 5,245 万円に対して、決算額は 181 億 6,230 万 3,000 円で、121 億 9,014 万 6,000 円の減となっております。

これは主に、第 1 項企業債の発行額が 71 億 5,680 万円の減額となったこと及び第 3 項補助金が 49 億 4,129 万 4,000 円の減額となったことによるもので、これらは国の補正予算に係る事業が繰り越しになったことなどによるものでございます。

次に、支出は、第 1 款資本的支出の予算額合計 408 億 5,381 万 1,000 円に対し、決算額は 286 億 3,685 万 1,000 円で、翌年度繰越額合計 103 億 8,300 万 6,000 円を差し引いた不用額は、18 億 3,395 万 4,000 円となっております。

不用額の主なものですが、第 1 項建設改良費が 16 億 1,407 万 1,000 円で、これは主に、執行の見直しを行ったことなどによるものでございます。

なお、表の下、欄外を御覧ください。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 104 億 7,454 万 7,000 円は、損益勘定留保資金などで補填いたしました。

次に、8 ページをお願いいたします。

議案第 128 号・剰余金の処分に関する説明でございます。

下の表の令和 6 年度千葉市下水道事業剰余金処分計算書を御覧ください。

一番右の欄、未処分利益剰余金 15 億 3,137 万円の処分について、議決をお願いするものでございます。

未処分利益剰余金の処分の内訳ですが、まず、上から 3 段目、減債積立金の積立とありますが、令和 6 年度決算における純利益 6 億 8,786 万 3,000 円を減債積立金へ積立てるものでございます。

また、4 段目、資本金への組入れとありますが、これは、令和 5 年度の純利益 8 億 4,350 万 7,000 円を令和 6 年度に減債積立金に積み立て、企業債の償還に使用したものであり、最終的に資本金に組み入れるものでございます。

以上が、下水道事業会計の決算状況及び剰余金の処分の説明でございます。よろしく願いいたします。

続きまして、令和 6 年度農業集落排水事業会計決算について、御説明いたします。

まず、農業集落排水事業会計決算書の 13 ページをお願いいたします。

初めに、1、概況の（1）総括事項について御説明いたします。

農業集落排水は農村の下水道とも言われ、農業振興地域において、生活雑配水などの汚水等を処理することにより、農業用排水及び公共用水域の水質保全を図り、また、生活環境を改善する役割を担っています。

本市農業集落排水事業は、令和 3 年度からの中長期経営計画において、公共下水への接続、

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

必要な収入の確保、公営企業会計の適用の3つを事業実施の柱と定めており、令和6年度は、公共下水道への接続推進に向けた施設再編事業を進めるとともに、公営企業会計の適用を行いました。

中ほどのア、事業実績でございますが、事業計画面積は375ヘクタールで、既に同面積の整備が完了しています。

また、計画世帯数は2,020戸であり、接続世帯数については、前年度より10戸増加し、1,843戸となり、接続率は91.2%となりました。

また、年間処理水量は54万7,101立方メートル、1日平均処理水量は1,499立方メートルとなりました。

主な事業のうち施設再編事業については、令和4年度より公共下水道への接続工事を進めており、令和6年度末までに野呂地区の汚水を公共下水道へ圧送するための管路及び、ポンプ設備の整備が完了しました。

さらに、中野・和泉地区から野呂地区への接続管路等及び更科地区から公共下水への接続管路の整備を進めました。

また、野呂地区で整備が完了したこれらの管路等については、野呂処理場内の既設設備の撤去及び流量調整槽の整備を実施したのち、令和7年中に供用開始となる予定でございます。

次に、決算状況について御説明します。

戻りまして決算書の2ページ、3ページをお願いいたします。

表の金額については、1,000円未満四捨五入で御説明いたします。

初めに、収益的収入及び支出ですが、収入は、第1款農業集落排水事業収益の予算額合計6億4,631万2,000円に対し、決算額は5億9,022万7,000円で、5,608万5,000円の減となっております。

減の主なものですが、第1項営業収益が981万4,000円の減で、これは主に、一般会計負担金が、繰入対象経費である企業債利息の減少に伴い、減額となったことなどによるものでございます。

また、第2項営業外収益が4,762万1,000円の減で、これは一般会計補助金が繰入対象経費である営業費用の減少に伴い、減額となったことなどによるものでございます。

次に、支出は、第1款農業集落排水事業費用の予算額合計6億4,281万5,000円に対し、決算額は5億9,233万9,000円で、不用額は5,047万6,000円となっております。

不用額の主なものですが、第1項営業費用が4,490万5,000円で、これは農業集落排水施設費における委託料や修繕費などが、当初の見込みを下回ったことなどによるものでございます。

4ページ、5ページをお願いいたします。

次に、資本的収入及び支出ですが、収入は、第1款資本的収入の予算額合計9億3,088万2,000円に対し、決算額は5億960万4,000円で、4億2,127万8,000円の減となっております。

これは、主に第1項企業債の発行額が2億8,820万円の減額となったこと及び第2項補助金が1億3,442万8,000円の減額となったことによるもので、これらは施設再編事業が繰り越しになったことなどによるものです。

次に、支出は、第1款資本的支出の予算額合計9億5,132万1,000円に対し、決算額は4億4,501万4,000円で、翌年度繰越額合計4億4,632万2,000円を差し引いた不用額は、5,998万5,000円となっております。

不用額の主なものですが、第1項建設改良費は5,898万4,000円で、これは工事請負費などが、契約差金などにより、当初の見込みを下回ったことなどによるものでございます。

以上が、農業集落排水事業会計の説明でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（麻生紀雄君） 最後に、令和6年度水道事業会計決算の総括説明をお願いいたします。水道局長。

○水道局長（山田裕之君） 令和6年度水道事業会計決算について、御説明いたします。

初めに、水道事業会計決算書の15ページをお願いいたします。

事業の概要について、説明いたします。

1、概況、（1）総括事項の中ほどの、アの事業実績ですが、令和6年度末では、計画給水区域内人口5万3,601人に対し、給水人口は4万4,884人で、前年度と比較して164人の減少となりましたが、普及率は0.1ポイント増加し、83.7%となりました。

年間総給水量は454万9,016立方メートルとなり、前年度と比較して10万2,420立方メートル、2.2%減少し、年間有取水量は451万3,121立方メートルとなり、前年度と比較して6万1,005立方メートル、1.3%の減少となりました。

この結果、有収率は前年度と比較して0.9ポイント増加し、99.2%となりました。

次に、イの経営状況ですが、営業収益は、15万7,000円減少し、9億7,470万円となり、前年度並みの収益を確保いたしました。これは、水道使用料である給水収益が前年度と比較して2.2%、2,005万1,000円減少したものの、加入者負担金などの、その他の営業収益が前年度と比較して41.9%、1,989万4,000円増加したことによるものでございます。

また、営業費用は、前年度と比較して3.5%、6,621万円増加し、19億3,675万3,000円となりました。これは、修繕費の増などにより、原水及び浄水費が2.4%、1,822万2,000円、退職給付費の増などにより、総係費が24.1%、4,643万5,000円、資産減耗費が857万円増加したことなどによるものでございます。

一般会計補助金は、前年度と比較して5.3%、4,383万8,000円増加し、8億6,640万9,000円となりました。これは、営業費用の増加に伴い、営業損益の赤字が7.4%、6,636万7,000円拡大したことなどによるものでございます。

今後も、収益の確保と費用の縮減を図り、効率的かつ効果的な事業運営に努めてまいります。

次に、決算状況について御説明いたします。

ページを戻っていただき、決算書の2ページ、3ページを見開きで御覧ください。

表の金額については、1,000円未満四捨五入で御説明いたします。

初めに、（1）収益的収入及び支出ですが、収入は、第1款水道事業収益の予算額の合計欄、22億6,489万3,000円に対し、決算額は21億8,841万2,000円で、予算額に比べ7,648万1,000円の減となっております。

減の主なものとしたしましては、第2項の営業外収益が予算額に比べ、5,540万5,000円の減となっており、これは、委託業等の減などに伴う一般会計からの補助金の減と、消費税及び地方消費税還付額の減などによるものでございます。

次に、支出は、第1款水道事業費の予算額の合計欄、22億88万4,000円に対し、決算額は21億3,129万4,000円で、不用額は6,959万円となっております。

不用額の主なものとしたしましては、第1項営業費用が、5,076万8,000円となっており、これは、入札差金等による配水及び給水費の修繕費の減や、建設改良工事の繰越しなどにより減

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（9月17日）

価償却費が減となったことなどによるものでございます。

続いて、4ページ、5ページを見開きでお願いいたします。

（2）資本的収入及び支出ですが、収入は、第1款資本的収入の予算額の合計欄、16億9,344万5,000円に対し、決算額は13億1,793万9,000円で、予算額に比べ3億7,550万6,000円の減となっております。

減の主なものといたしましては、第1項企業債が予算額に比べ3億5,700万円の減となっており、これは、事業の繰越などに伴い、企業債借入額が減になったものでございます。

次に、支出は、第1款資本的支出の予算額の合計欄、22億766万3,000円に対し、決算額は18億29万8,000円で、翌年度繰越額2億6,000万円を除いた不用額は、1億4,736万5,000円となっております。

不用額の主なものといたしましては、第1項建設改良費が1億4,367万7,000円となっており、これは、工事請負費や委託費用の契約差金などによるものでございます。

なお、表の下、欄外に記載しております、資本的収入額が資本的支出額に不足する額、4億8,235万9,000円は、当年度分損益勘定留保資金などで補填いたしました。

以上が、水道事業会計の決算でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（麻生紀雄君） お聞きのとおりでございます。

以上で、本日の日程は終了いたしました。

次回は、10月1日、本会議散会後に委員会を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。御苦労様でした。

午 後 2 時 40 分 散 会

千葉県議会委員会条例第29条の規定により署名する。

決算審査特別委員長 麻 生 紀 雄